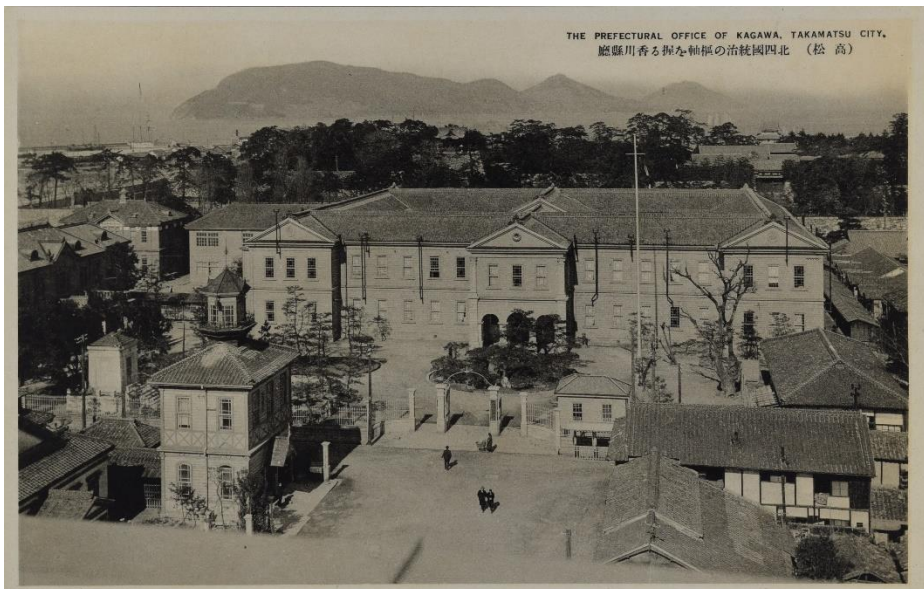


「高松市街地絵葉書 二葉」(諸家25文書69・83)



【資料名】(右)市街の一部

(左)香川県庁

【年代】 明治後期～昭和初期ごろ

【解説】

高松市街地を写した絵葉書を2葉、ご紹介する。

1枚目は、現在の丸亀町壺番街前ドーム広場辺りの建物群だ。おそらく百十四銀行辺りからの撮影と思われる。

左側の建物は千寿堂本店。ビールの看板があることから、酒場だろうか。また、社交ダンス場も併設されていた。その奥の二階建ての瓦屋根が高松郵便局だろう。

右側の建物はタムラ食堂。その奥に三越がある。そして、最も奥にある立派な建物が初代香川県庁舎だ。

2枚目が、その県庁舎の全体像である。木造2階建ての青い外装で、当時は相当目を引いただろう。奥には玉藻城、そして海と女木島が見える。三越辺りからの撮影と思われる。

「香川県庁」は流転の運命にあった。明治維新の後、現在に至るまで、移転を繰り返すこと4度。名称変更には7度に及ぶ。徳島県や愛媛県との合併に伴う「高松支庁」時代と、第1次・第2次香川県設置が相次いだためだ。したがって、第3次香川県が設置された6年後の1894年(明治27年)になってようやく、初代香川県庁舎は新築されたのである。それまでは既存の屋敷を利用しているに過ぎず、再三の香川県の廃止・併合を避けるためには、県庁舎の建築が必要と考えられていた。ゆえに、この香川県庁舎の新築は、県民の悲願だった。

しかしこれらの風景は、もはや失われてしまった。1945年(昭和20年)7月4日未明の空襲により、この辺り一帯は焼け野原となったのだ。

今も変わらないのは、島の姿のみである。